

生成AI KAIZUKAプラン

貝塚市における現在の状況

①GIGAスクールの推進

令和2年度のGIGAスクール構想により、子どもたちにとって、タブレットがある環境が当たり前のもになった。市内小中学校の持ち帰り率も100%となっている。

令和6年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果でも、授業におけるタブレットの活用率は全国と比べても高くなっている。

(授業で毎日活用していると回答した割合)

・小学校・・・**43.3%** (国25.3%)

・中学校・・・**51.5%** (国31.0%)



しかし、活用が進む一方で、個別最適な学びの実現に向けたタブレットの活用という面においては、教員間、学校間で格差が生じている。よって今後は全市的にタブレットの利活用による授業改善について研究を推進していく必要がある。

②生成AIの活用

令和5年に文部科学省が発表した生成AIの活用に関する暫定的なガイドラインを基に、各学校において可能な範囲での活用が進められている。教職員の校務での利用は進んでいるものの、教員の授業づくりや子どもの主体的な学びにおける活用はあまり進んでいない。

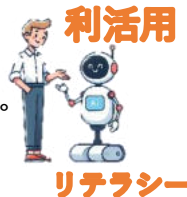
令和6年度にパイロット校を指定し、生成AIを教員が校務および授業で活用したり、生徒が学習で活用したりする方法について研究を行った。今後は、その成果を市域全体に広めていく必要がある。

研究内容

①教員が生成AIを用いて、**児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた教材や学習プログラム**を提供する。

②**生徒自身が生成AIと対話**しながら主体的に学習できるようにする。

③**生成AIには誤った情報が含まれることに対する理解を深め、**
生成AIから得られた情報を効果的に活用できる力を育成する。



タイムスケジュール

R6

- ・パイロット校にて生成AIの校務での活用
- ・パイロット校にて生成AIの授業での活用

R7

- ・研究校（小中学校）にて生成AIの校務での活用
- ・研究校（中学校）にて生成AIの授業での活用

R8

- ・全小中学校にて生成AIの校務での活用
- ・全中学校にて生成AIの授業での活用

パイロット校

研究校

全小学校
全中学校



生成AI活用実践例

〈教職員〉

【授業準備・教材作成】

- ・授業用教材やテスト問題のたたき台を作成する。
- ・児童生徒の感想を集約する。
- ・授業での発問に対して、児童生徒がどのような回答を返すかというシミュレーションを行う。
- ・校外学習等の行程のたたき台を作成する。

【部活動】

- ・過去の部活動練習メニューを基に日々の練習計画を作成する。

【学校運営】

- ・時間割案を作成する。
- ・学校便り（学級便り、給食便りなど）のたたき台を作成する。
- ・学校行事に関する記事やホームページへの掲載文のたたき台を作成する。

【校内研修】

- ・研修資料のたたき台を作成する。
- ・研修や講演会の内容を要約し、議事録案を作成する。

【外部対応】

- ・家庭訪問や懇談会等の日程を調整する。
- ・挨拶文のたたき台を作成する。

〈児童生徒〉

【情報モラル教育】

- ・生成AIが出力した誤りを含む内容を教材にして、その性質や限界に気づく。
- ・生成AIの課題について考え、議論する。

【授業内活動】

- ・グループでの議論の途中段階で、視点を補足するために活用する。
- ・自然な英語表現への改善のために、英会話の相手として活用する。
- ・一人ひとりの興味関心に応じた単語・例文リストを作成する。
- ・日本語指導が必要な児童生徒の日本語学習の補助として活用する。
- ・学習している内容の解説を一人ひとりの理解度に合わせて出力する。

ゴール

令和8年度までに、教職員、児童生徒が生成AIの仕組みについて正しく理解し、当たり前の学びのツールとして活用できるようになる。